

深沢紅子（1903-1993）は、上京して岡田三郎助のもとで油彩画を学び、一水会展、女流画家展などに作品を発表するかたわら、1930年代から訪れていた軽井沢をこよなく愛し、1964年から1983年までは軽井沢の堀辰雄1412番山荘（現在、軽井沢高原文庫に移築）を夏のアトリエとして使用し、浅間高原に咲く多くの野の花を水彩で描き続けました。

深沢紅子野の花美術館は、平成8年（1996）7月、（旧）軽井沢郵便局舎だった建物を軽井沢タリアセン内に移築した「明治四十四年館」にオープンしました。

本展では、開館30周年を記念して、深沢紅子が好んで描いた花と少女をテーマにした作品の中から、油彩・水彩画等約40点を展覧します。



深沢紅子 昭和14年頃
伊藤憲治、船越好文と尾瀬沼に遊ぶ



深沢紅子「てっせん」水彩 1991年



深沢紅子 軽井沢1412番山荘で、夫・省三と
1982.8.18 宮崎陽子撮影

深沢紅子（ふかざわ こうこ）

1903年／岩手県盛岡市生まれ

1919年／盛岡高等女学校卒業。

13歳頃から池田龍甫に日本画を習っていたため

東京女子美術学校（現在の女子美術大学）日本画科に入学。

1921年／油絵科に転科。岡田三郎助に師事。

1923年／同校卒業。同郷の画家深沢省三と結婚。

1925年／二科会展に初入選。

1937年／第1回一水会展に出品。

1947年／第1回女流画家展に出品。

1949年／一水会優賞受賞。

1952年／一水会委員となる。

戦後、盛岡短大・自由学園等で美術の指導にあたる。

1964年／この年から1983年まで、軽井沢の堀辰雄1412番山荘で夏を過ごし、高原の野の花を多く描く。

また、戦前・戦後を通じ堀辰雄、川端康成、立原道造、津村信夫、福永武彦ら多くの文学者と交流し、

本の装幀なども数多く手がける。

1980年／深沢紅子画業六十年展（岩手県民会館）

1985年／深沢紅子展 親しい人 優しいひとたち（日本橋高島屋）

1992年／深沢紅子野の花展（軽井沢高原文庫）

1993年／斎藤長三・深沢紅子展（練馬区立美術館）

3月25日、山中湖山荘にて死去。90歳

1996年／7月、軽井沢に深沢紅子野の花美術館開館。9月、盛岡に深沢紅子野の花美術館開館。

<イベント> 野の花さんぽ 2026

軽井沢の自然の豊かさと、軽井沢タリアセンに残された里山を発見する「野の花さんぽ」シリーズを2026年も開催します。四季折々に咲く花や植物たちを、一緒に歩きながら、途中クイズなどに挑戦しながら楽しく探します。植物に詳しくない初心者の方も大歓迎です。どうぞお気軽にご参加ください。



「野の花さんぽ」の様子 塩沢湖畔にて 2025年春

日 時：①5月9日（土）、②7月11日（土）、③8月8日（土）、
④9月12日（土）、⑤10月10日（土） 計5回 *いずれも予定
各13時半～15時

料 金：深沢紅子野の花美術館入館料（大人600円 小・中学生300円）

定 員：10名程度 ※要予約 ※小雨決行

ガイド：軽井沢サクラソウ会議・自然観察指導員

集 合：当日、深沢紅子野の花美術館入館券またはミュージアムセット券をご購入
のうえ、13時25分に軽井沢タリアセン中央ゲート前までお越しください。

予約受付：電話：0267-46-6161 または FAX：0267-45-3663 までご連絡ください。

予約は前日15時まで受け付けております。

次回展示9月2日（水）～2027年1月12日（月）
「深沢紅子・甲斐仁代展～ふたりの女性画家～」(予定)

深沢紅子野の花美術館

Kouko Fukazawa Nonohana Museum

入館料 大人600円 小中学生300円

会期中無休 開館時間：9:00～17:00

Tel.0267-45-3662 Fax.0267-45-6466

http://www.karuizawataliesin.com



〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉 217 明治四十四年館

※展覧会およびイベントは、予告なく変更または中止する場合がございます。

<アクセス>

JR北陸新幹線・しなの鉄道「軽井沢駅」下車、タクシー約10分、または、しなの鉄道「中軽井沢駅」下車、タクシー約7分。

上信越自動車道・碓氷軽井沢ICより車で約15分。

<急行塩沢湖線> 通年「軽井沢駅北口バスターミナル④番」→「塩沢湖」下車徒歩5分（有料420円）

<町内循環バス（東・南廻り線）> 通年「軽井沢駅北口バスターミナル①番」→「風越公園」下車徒歩15分（有料100円）

